

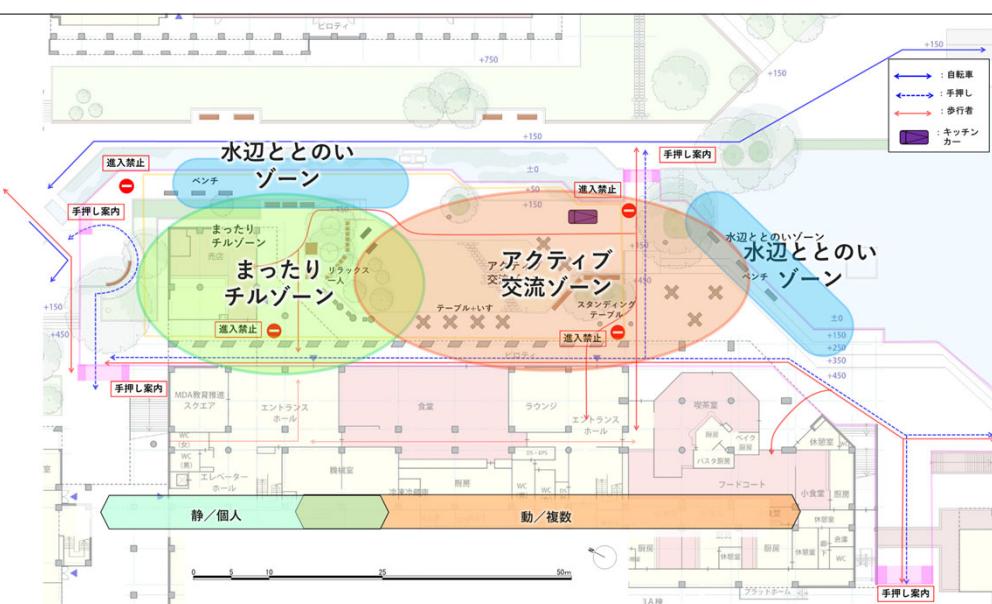
第3エリアスマートキャンパスプロジェクト概要

■目的と実施体制

- 第3エリアスマートキャンパスプロジェクトは、開学から50年が経過し、老朽化や使いにくさが生じているキャンパスを、ポストコロナ時代にふさわしい、人と人の自然な出会いや交流が生まれる場にリニューアルし、学生と教職員のための安全で居心地のよいキャンパスに改善することを目的としている。
- 筑波大学ヒューマン・スマートシティ研究機構と鹿島建設株式会社の共同研究として、第3エリアの屋外空間を対象とし、憩いやリフレッシュの場、学生の居場所、多様で豊かな交流の場を創出する「ブレイスマーキング」と、データ連携基盤を活用した「スマートプランニング」を組み合わせた社会実験を行った。
- 学生・教職員の皆さんの空間利用の実態に合わせたキャンパス整備シナリオを検討しながら、過ごしやすく・移動しやすいキャンパスづくりを目指し、学生WSの意見をもとにプランを作成している。
- ヒューマン・スマートシティ研究機構・鹿島共同研究(CCI06207)
「教育研究環境の改善に向けた、第3エリアを中心としたキャンパス空間の再構築に関する研究」
研究代表者：鈴木健嗣
研究分担者：藤井さやか、浦田淳子、雨宮謙、山本幸子
共同研究者：鹿島建設株式会社、株式会社アバンゾンシエイツ
研究概要：スマートプランニングとブレイスマーキングを組み合わせた教育研究環境改善(スマートキャンパス化)を実現する計画技術の開発と実証を行うことを目的とする。第3エリア屋外空間にスマートキャンパス化空間を設置する社会実験を行い、学生・教職員の意見収集と満足度調査、交通流の変化計測、利用行動調査等を通じて実験の効果検証を行う。

■社会実験プラン(2025年10月実施)

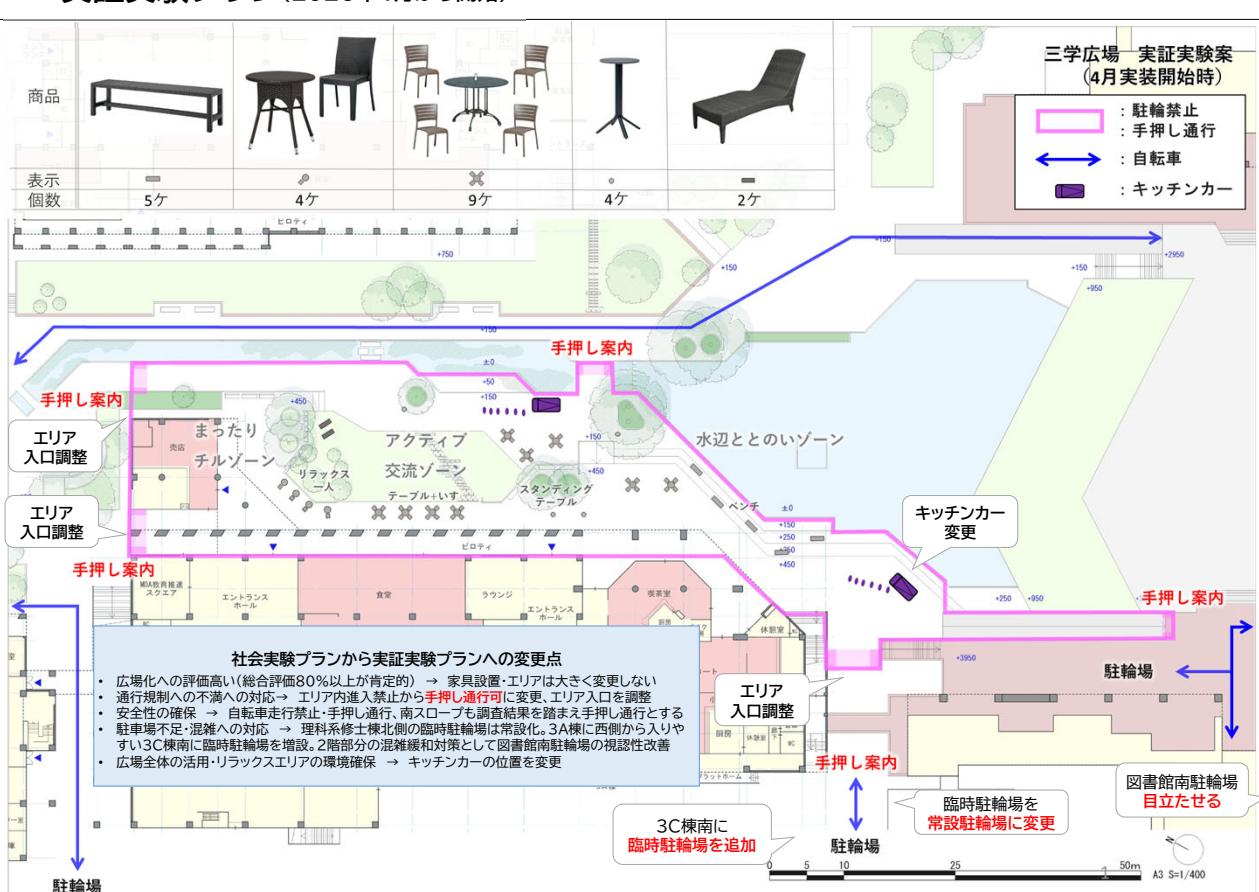
- 学生WSでの意見をもとに、屋外空間を3つの特徴を持つエリア(アクティブ交流ゾーン、まつりチルゾーン、水辺とのいゾーン)に分け、それぞれに適した過ごし方ができるような屋外家具を設置した。また社会実験期間前半にはキッキンカーを誘致した。
- 社会実験期間中には、学生から提案があり、コーヒースタンド、中古教科書販売、DJブース、駐輪場調査提案の活動が行われた。



従前の様子(歩行者・自転車・行列が錯綜、駐輪自転車で空間が埋まっている)



■実証実験プラン(2026年4月から開始)



社会実験期の様子(滞留・交流が発生)

■スケジュール

- 2024年秋から検討を始め、2回の学生WSを経てプランを検討、10/1~10/29に社会実験を実施した。
- 実験効果を検証するため、自転車・歩行ルート及びブレイスマーキングに関する複数の調査を実施した。
- 終了後に3回目の学生WSを行い、2026年4月からの実証実験プランを作成、2026年4月から開始予定。

